

関連事業紹介

歴史トークショー「今川氏と静岡」

今川といえばこのお二人！静岡を代表する歴史の大家が、戦国時代を力強く生きた今川氏の魅力や、後の駿府・静岡との深いつながりを語ります。

日時/5月3日(金・祝)13:00~16:00(開場12:00)

会場/静岡市民文化会館 中ホール

定員/800人(参加無料)

講師/小和田哲男さん(静岡市歴史博物館名誉顧問・静岡大学名誉教授) 春風亭昇太さん(静岡市歴史博物館名誉顧問兼静岡市観光親善大使)

申込/①4月6日(土)10:00~静岡市歴史博物館ホームページ申込フォームで先行受付(申込順) ②4月12日(金)10:00~静岡市歴史博物館へ電話、または博物館インフォメーションで直接申込み(申込順)



小和田哲男さん



春風亭昇太さん

博物館交流ひろば(歴史トーク)

いずれも参加無料、申し込み不要。会場はいずれも静岡市歴史博物館1階(入館無料エリア)です。(特に記載のない回は当館学芸員が担当します)

4.27 13:30~14:30 「今川義元の時代」 今川氏の全盛期を築いた名將・今川義元。企画展「今川義元」の見どころと、義元が生きた時代をわかりやすく語ります。

4.29 13:30~15:00 「戦国大名 今川氏の礎 氏親」 長く駿河の守護大名であった今川氏。やがて直面した戦国の荒波に、いち早く戦国大名として君臨した今川氏親の歩みを徹底紹介！

5.6 10:45~11:15 「今川義元ってどんな人？」 今川義元の一生を追いながら、どんな道で強い戦国大名になったのかを紹介！

5.6 11:30~12:00 「義元と信長、家康」 今川義元が、有名な織田信長、徳川家康とも関わりの深い人物であったことを紹介します。

学芸員ガイドツアー

「太守」義元様はいずこ？ 今川館を探る！今川ガイドツアー 参加無料

5.12 5.25 【開催時間】両日とも10:00~11:00 ※同内容で2回開催。

静岡市歴史博物館に集合し、駿府城公園一帯を歩いて巡ります。同公園内で解散。これまでに見つかった遺構の位置、一帯の地形などから、今川館のあった場所を考えてみましょう。

定員/どなたでも各30人(申込順) 案内役/駿府城発掘現場調査員 静岡市歴史博物館学芸員

申込/4月13日(土)10時~静岡市歴史博物館へ電話(054-204-1005)または来館して直接申し込み。

5.19 11:00~11:45 「今川氏輝の治政」 「臨濟寺殿」こと今川氏輝、わずか24年という短い生涯で彼が行った政治とは？氏輝を支えた母、寿桂尼と絡めてお話しします。

6.9 13:30~14:30 「今川家臣の再就職」 今川氏が滅びた後、その家臣たちは武田信玄・勝頼や徳川家康の下で再就職を果たし、戦国時代を生き延びました。その足取りを紹介します。



静岡市歴史博物館 へのおまち道中案内MAP 博物館への道 定番コース 徒歩:約15分

作成協力:静岡駅ビルパルシェ



今川義元公像・竹千代君像 JR静岡駅北口広場に立つ男肩姿の「今川義元公像」(右) 後の天下人、徳川家康「竹千代君像」(左)を見守るように並び立っています

歴史博物館への交通アクセス JRをご利用の場合 「静岡駅」下車、北口から... 静岡鉄道をご利用の場合 「新静岡駅」から 徒歩8分... 富士山静岡空港をご利用の場合 空港からしずてつジャストラインバス 富士山静岡空港静岡線「新静岡」下車 徒歩8分

静岡市歴史博物館 Shizuoka City Museum of History

静岡市葵区追手町4番16号 電話:054-204-1005 ホームページ:https://scmh.jp FAX:054-204-7373 指定管理者 公益財団法人静岡市文化振興財団



静岡市歴史博物館 企画展

駿府に「海道一の弓取り」がいた時代



今川義元木像(複製/原資料は臨濟寺所蔵)

2024 4.27(土)・6.9(日) 静岡市歴史博物館 3階企画展示室

開館時間/9時~18時(展示室への入場は閉館30分前まで) 休館日/月曜日(国民の祝日・休日にあたる時は開館、翌平日休館) ※4月30日(火)は臨時開館します。 観覧料/一般 1,000円、高校生・大学生・静岡市内70歳以上 700円、小中学生 250円

静岡市歴史博物館 Shizuoka City Museum of History

今川義元の一生

今川氏は室町幕府を開いた足利將軍家の一族です。初代將軍尊氏のころ活躍した今川範国が駿河守護に任命されると、志太・静岡平野を本拠に、いまの静岡県中部一帯へ影響力を広げていきます。およそ200年後、8代氏親は遠江(静岡県西部)を平定。独自の領国法など先進的な支配制度を整え、將軍の力に頼らない「戦国大名」へと進化します。義元はその氏親の子として生まれ、やがて隣国三河(愛知県東部)まで制圧して今川氏の全盛期を築くこととなります。



今川義元木像(新定院所蔵)

- 永正16(1519)年 今川氏親の子として誕生。幼名芳菊丸。
●大永2(1522)年 4歳 善得寺(富士市)に入り仏道に進む。
●天文5(1536)年 18歳 兄氏輝らが死去。家督を巡り兄弟の玄広惠探と争って勝利(花蔵の乱)。10代目の今川家当主に。
●天文17(1548)年 30歳 三河・小豆坂の戦いで織田信秀に勝利。
●天文18(1549)年 31歳 松平竹千代を駿府に引き取る。
●天文22(1553)年 35歳 今川仮名目録追加。今川家訴訟条目を制定。
●天文23(1554)年 36歳 武田信玄・北条康成と同盟(甲相駿三国同盟)。
●弘治3(1557)年 39歳 氏真に今川家当主を譲る。

北条氏の大侵攻「河東一乱」

「河東一乱」は、義元にとって人生最大の危機でした。長年争っていた武田と結んだことで北条と激しく対立、領国の東から本格的な侵攻を受け、さらに西の遠江・三河一帯でも、北条に扇動された家臣らが反乱を起こします。義元は、従う家臣らに一致団結を促しながら、武田氏や、北条と対立する関東の諸氏らと連携して反撃、ついに駿河東部を取り戻しました。この和陸は、その後の武田・北条との三国同盟につながっていきます。

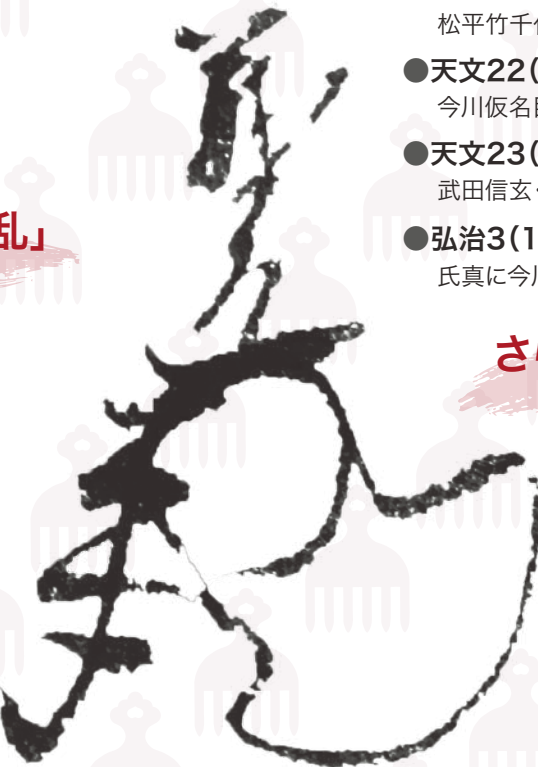


松井貞宗宛て今川義元書状写(臨濟寺所蔵) 「兩國安危此時候間、各被相滅一途遂本意候者快然候(領国の危機である今、一致団結して難局を乗り切るぞ)

- 天文6(1537)年~ 天文9(1540)年 19~23歳 甲斐武田氏との同盟により北条氏と対立。大規模な侵攻で駿河東部を失う(第一次河東一乱)。
●天文14(1545)年 27歳 北条氏と再び交戦(第二次河東一乱)。駿河東部を奪還して和陸する。

三河進出と領国の成熟

駿河・遠江を安定させた義元は本腰を入れて三河へ進出し、最大勢力の岡崎・松平氏の取り込みを巡って尾張(愛知県西部)の織田信秀と衝突します。抗争の末、松平の当主竹千代を駿府に迎え、三河支配の主導権を確立。義元は自国の法律をさらに整備し、武田、北条との関係も安定させて、今川領を全国屈指の強国に成熟させます。



さらに西へ...桶狭間合戦

織田信秀が病没すると、織田家は内紛などで混乱し、義元の影響力が尾張南部に浸透します。海沿いの鳴海(名古屋市緑区)などの勢力が相次いで投降し、義元は尾張と伊勢湾に進出する好機を得ました。一方、家中をまとめた織田信長は、尾張統一を目指して鳴海一帯に侵攻。義元は周到な準備で出陣しますが、桶狭間の合戦で討たれ、彼の戦国大名の道は突然終わりを迎えました。

- 永禄3(1560)年 42歳 尾張南部へ出陣。織田信長に敗れて討死。



桶狭間今川義元血戦(当館所蔵)



# 義元時代の今川領国

1540年代～1560年までの広がり

守護として駿河に入った今川氏は、8代氏親の代に分国法などを整備し、独自の支配体制を持つ「戦国大名」へと脱皮しました。10代義元の代には、武田・北条との関係や三河の支配を安定させ、強大な国として尾張の織田領を圧迫していきました。

## 織田氏

尾張（愛知県西部）の豊かな経済力を背景に台頭してきた戦国大名。三河支配を巡って今川氏と争い、義元の勢力が南尾張に延びると、多くの砦を築いて徹底抗戦の構えを見せました。桶狭間で義元を討つと、今川氏から独立した松平元康と同盟します。

## 1 松平氏

松平氏は、西三河支配のかぎを握る一族として今川・織田両氏から圧迫を受け続けました。当主広忠の死後、義元は跡継ぎの竹千代（元康）を駿河に保護し、松平の当主として育て上げました。元康は尾張攻めで大高城救援と丸根砦攻略に成功し、優れた武將ぶりを発揮。義元没後も織田から三河を守りますが、やがて信長と結んで今川氏から独立。義元から授けられた「元」を捨て「家康」と改名しました。



現在の岡崎城  
(提供：岡崎市)



紅糸威腹巻 (復元模造/当館所蔵  
原資料は静岡浅間神社所蔵)  
義元が元康に贈った「着初めの巻」と伝わり、  
今川領国の高い甲冑制作技術を読み取れます  
(当館基本展示でご覧いただけます)

## 2 松井氏

初代駿河守護・今川範囲の代から仕えていた譜代家臣。河東一乱の際、当主貞宗は遠江で謀反した国衆征伐に活躍。三河侵攻でも功を挙げます。桶狭間には宗信が従軍し、崩れた本隊の救援に駆け付け、討ち取られたと伝わります。

## 4 朝比奈氏

朝比奈大龍勢  
簡に黒色公を誇る「花火を打ち上げるお祭りの、志太地域の山間には本を有する朝比奈氏と岡部氏、のりして手紙を取り合っていた」とい由来するといわれています。

朝比奈ちまき  
朝比奈氏が出陣に携行したと伝わります。近年、藤枝市内で再現されました。

## 5 岡部氏

当主親綱は花蔵の乱で義元に味方して大活躍し、以降義元に重用されました。その子元信も織田軍との抗争で数々戦功を挙げ、最前線の鳴海城を任せられました。桶狭間で義元が討たれると、その首を受け取るまで織田軍に抗戦し続けたと伝わります。後に武田氏に降伏し、遠江の高天神城で家康と戦い、壮絶な死を遂げたといわれています。同族の正綱が家康に仕え、後の岸和田（大阪府）藩主岡部氏として幕末まで残りました。



しずおか遺産  
静岡県 HP

しずおか遺産  
文武に秀でた今川一族  
～伝統を守る山西の地～

今川氏が駿河守護として長く統治し、義元の家督争い「花蔵の乱」の主舞台にもなった志太地域。関連する史跡・寺社・伝統行事などを結んだストーリーは、令和6年1月、静岡県の「しずおか遺産」に認定されました。



静岡浅間神社廿日会祭で奉納される稚児舞楽  
(国指定重要無形民俗文化財/提供：静岡浅間神社)  
義元の時代から続く伝統芸能です



静岡浅間神社楼門 (静岡市葵区宮ヶ崎町)  
今川氏が崇敬した駿府最大の社



## 3 桶狭間役今川織田両軍戦闘経過要図 (臨濟寺所蔵)



桶狭間古戦場公園 (名古屋市長区)



義元騎像  
(大聖寺 愛知県豊川市)

# 駿府

義元ら当主とその家族、今川一門の家臣らが在住。駿府城址から、屋敷跡や、金箔を貼ったかわらけなど豪華な生活ぶりを示す遺物が見つかり、付近に上級の武家の住まいがあったと考えられています。(今川館の所在地は未特定)

今川家は都とのつながりも深く、駿府には、貴族や高僧らの訪問で都の文化・文物が蓄積されました。



香炉卓 (臨濟寺所蔵)  
京都・天龍寺の高僧彦彦(さくげん)が駿府にもたらしたと伝わります。

金箔かわらけ (部分)  
(城内中学校遺跡出土/静岡市所蔵)



増善寺 (静岡市葵区慈徳尾)  
8代氏親の菩提寺

臨濟寺 (静岡市葵区大岩町)  
義元が兄氏輝の供養に建立した寺

天沢寺旧地 (今川義元首塚 富春院/静岡市葵区大岩本町)  
義元をまつ天沢寺は江戸時代に廃れ、臨濟寺が供養を引き継いでいます

崇徳寺 (静岡市駿河区丸子)  
国内人気ナンバーワンの蓮歌師宗長が庵を結んだ地



大原重直頂相(複製/原資料は清見寺所蔵)  
今川家臣の庵原出身。領内は清見寺所蔵の軍事・外交に活躍して義元を支えました

甲相駿三国同盟  
天文23(1554)年に成立

## 「河東一乱」の係争地 (駿河東部)

### 武田氏

源氏の名門として甲斐(山梨県)に君臨。今川氏はたびたび甲斐南部に侵攻して争ってきました。この頃、信虎、晴信(信玄)という優れた当主が続き、積極的に信濃(長野県)への領国拡大を進めます。義元は娘を嫁がせて同盟を結び、一度も刃を交えませんでした。有名な「塩留め」など、今川氏が再び武田氏と対立するのは、氏真の代になってからです。

### 北条氏

初代の伊勢宗瑞は、今川氏親の叔父としてその勢力拡大に貢献。やがて伊豆(静岡県東部)、相模(神奈川県)を支配する「戦国大名」に成長し、今川氏から独立して関東へ進出します。2代氏綱は武田氏との関係を巡って義元と対立し、駿河東部に大侵攻して「河東一乱」を起こしました。

## 8 富士氏

富士浅間社の大宮司を務めながら今川氏に仕えました。当主信忠は、河東一乱で義元に忠義を尽くして奮戦。義元死後、武田信玄が駿河に侵攻した際も徹底抗戦します。大名としての今川氏が消滅すると、氏真の許しを得て武田氏に仕えました。



富士山本宮浅間大社 (富士宮市宮司)

## 7 蒲原氏

蒲原(静岡市清水区)一帯を本拠とした今川一門。当主氏徳は桶狭間の戦いで従軍して戦死。その子徳兼は、反乱制圧の功で氏真から「神原」の名乗りを許され、今日まで神原家として残っています。同家に伝わる系譜では、義元のルーツはこの一族にあるといえます



駿河湾を見晴らす蒲原城址 (静岡市清水区蒲原)

今回の企画展は、今川義元の活躍とその領国の姿を、拡大戦略、支配体制、優れた家臣団という三つの観点「天・地・人」でとらえ、古文書や出土遺物ほか様々な史料を通してその実像に迫ります。本紙掲載の関連スポットを地図上で紹介する「義元ゆかりの地マップ」ほか、詳しい展示・イベント情報は当館ホームページでご確認ください。



▼当館HPはこちら▼